財務報告に係る内部統制の評価及び監査（実施基準のポイント）

I. 内部統制の基本的枠組み

内部統制の目的

- ・ 業務の有効性及び効率性
- ・ 財務報告の信頼性
- ・ 事業活動に関わる法令等の遵守
- ・ 資産の保全

内部統制の基本的要素

- ・ 統制環境
- ・ リスクの評価と対応
- ・ 統制活動
- ・ 情報と伝達
- ・ モニタリング
- ・ IT(情報技術)への対応

財務報告に係る内部統制の構築の要点・プロセス

- 基本的計画及び方針の決定
- 内部統制の整備状況の把握
 - ・ 全社的な内部統制
 - ・ 業務プロセスに係る内部統制
- 把握された不備の是正

II. 財務報告に係る内部統制の評価及び報告

- 全社的な内部統制の評価（評価項目を例示）

- 業務プロセスに係る内部統制の評価

① 評価範囲の決定

- ・ 重要な事業拠点の選定（例えば、売上高等の2/3程度をカバー）
- ・ 評価対象とする業務プロセスの識別
〔重要な事業拠点における売上、売掛金、棚卸資産に至る業務プロセス+重要性の大きい業務プロセスを個別に追加〕

② 内部統制の整備・運用状況の評価

- ・ 内部統制の整備状況の評価
 - ・ 内部統制の運用状況の評価
- ⇒ 内部統制に係る「不備」の質的重要性及び金額的重要性（例えば、合算して連結税引前利益の5%程度）を勘案して、「重要な欠陥」の有無を判断

- 重要な欠陥等の報告と是正

内部統制報告書

III. 財務報告に係る内部統制の監査

- 監査計画の策定
 - ・ 財務諸表監査に係る監査計画と一体的に策定
 - ・ 監査証拠は相互で利用

- 全社的な内部統制の評価の検討

- 業務プロセスに係る内部統制の評価の検討

① 評価範囲の妥当性の検討（必要に応じ、経営者との事前の協議）

② 内部統制の整備・運用状況の検討

- ・ 内部統制の整備状況の検討
- ・ 内部統制の運用状況の検討（例えば、信頼度90%のサンプリングによる検討）

- 重要な欠陥等の報告と是正状況の検討

- 内部統制監査報告書